

## 皮膚温は1度低減 保水性舗装で効果

大成ロテックが実証

大成ロテックは、岡山県立大学、信州大学、横浜国立大学、大阪産業技術研究所と共



人工気象室での実験状況

同で、保水性舗装の人への効果を実証した。保水性舗装環境下での皮膚温や発汗量などを測定し、人体熱負荷量の低減を確認した。

実験はブロックタイプの保水性舗装を使い、人工気象室と屋外の2カ所で実施。屋外試験では通常のアスファルト舗装と、明度の異なる2種類の保水性舗装のブロックをそれぞれ7桁角、人工気象室では4桁角に設定し、路面温度や気温に加え、被験者の皮膚温、発汗量、心拍数、代謝量などの人体生理量を実測し、人への効果を検証した。

その結果、通常のアスファルト舗装と比べ、路面温度は

20度以上、気温は2度、皮膚温は約1度低くなることを確認。環境物理量と人体生理量を統合して得られる人体熱負荷量の軽減を実証した。なかでも足元はその効果が明確なため、子どもやペット、車いす利用者などへの効果が期待できる。

実証は今回で2シーズン目となり、現在は遮熱性舗装の検証も進めている。大成ロテックは保水性舗装の普及により、歩道利用者や近隣住民の暑熱環境を改善し、熱中症予防に貢献していく方針だ。